

□■第2回タイ・島根 次世代企業家交流会報告■□

～未来をつくる「縁」をつむぎ続けること～

今回は2019年9月3日(火)～5日(木)に開催された島根県とタイの次世代企業家交流会についてレポートします。



1. 交流会の目的

次代を担う企業家同士の交流を通してタイ企業と島根県企業のグローバル競争力を強化するための試みです。この交流会はタイ・島根それぞれの企業が国内市場のみに留まることなく、ASEANをはじめとする海外市場へと広く目を向け、今後のグローバル展開へのきっかけとなることを期待して2018年にスタートしました。

さらには参加企業同士の交流が続き、将来的な技術提携や協業なども視野に入れたパートナーシップの醸成につながることも期待されています。交流会を行った結果、昨年参加された島根県企業とタイ企業の交流が継続していたり、昨年参加されたタイ企業が、今年度の参加企業をご紹介くださったりと少しずつですが輪が広がり始めています。

また今年度参加したタイ企業から後日、「知り合いのタイ企業が今回交流した島根県企業のビジネスに関心を持っているので是非紹介したい」といった声もあがっているほか、今回出会った島根県企業と具体的にビジネスの話をするために島根県を再度訪れようという動きも出てきました。

意志があり、ネットワークをもつ企業家同士が出会うこと、そしてお互いのビジネスとお互いのパーソナリティをよく知ることで、それは1対1の一期一会に終わる出会いではなく、それぞれの企業家の背後にあるネットワークを含めたN×Nの出会いとビジネスの可能性の広がりと改めて得心しました。

2. 交流会の内容

交流会は以下のプログラムで行われました。

- ・ 9月3日（火）：企業家交流会
- ・ 9月4日（水）：交流会参加企業訪問
- ・ 9月5日（木）：グローバル戦略構築セミナー及び名刺交換会

これまでの参加企業や交流会の詳細は島根県庁の HP 内にある、「海外展開支援」に関するページ(<https://www.pref.shimane.lg.jp/industry/enterprise/shien/kaigai/>)にまとまっています。是非こちらをご覧くださいので、オフィス便りでは3日目に開催されたグローバル戦略構築セミナー及び名刺交換会についてご紹介します。

各回及び参加タイ企業のリンクはこちら↓

●第1回交流会の様子

<https://www.pref.shimane.lg.jp/industry/enterprise/shien/kaigai/meeting2018.html>

●第2回交流会の様子

<https://www.pref.shimane.lg.jp/industry/enterprise/shien/kaigai/jisedaikouryukai.html>

●これまでに交流会に参加したタイ企業の一覧

<https://www.pref.shimane.lg.jp/industry/enterprise/shien/kaigai/companyprofile.html>

3. 9月5日（木）グローバル戦略構築セミナー及び名刺交換会

セミナー前半では、タイを中心とした東南アジア諸国の最新事情についての解説があった他、航空機やヘルスケア産業など今後成長が見込まれる分野に取り組むタイ企業が事業概要や、この分野の発展可能性について講演を行いました。

また後半では海外展開に取り組む県内企業も参加しパネルディスカッションを行いました。

セミナー終了後には聴講した県内企業とタイ企業との間で名刺交換会を開催し、自社製品の海外展開可能性について活発に情報交換が行われました。

<講演1> テーマ「CLMVTの環境変化と今後の成長市場」

(講演者：アジア・アライアンス・パートナー チャクリット・ブンパイサンチャイ氏)

最近注目の集まる CLMVT 地域（カンボジア・ラオス・ミャンマー・ベトナム・タイの総称）の成長性と各国の最新事情、同地域において注目されている航空機・ヘルスケア産業の発展可能性についてお話いただきました。この地域を含む ASEAN10 カ国の人口は約 6 億 5000 万人です。その中でも陸続きの CLMVT 5 カ国は貿易（運送、通関規制など）、サービス、観光の促進、人材育成、移動などで協力が進んでいます。インフラの整備も進み、今後の市場としての成長性が期待されています。

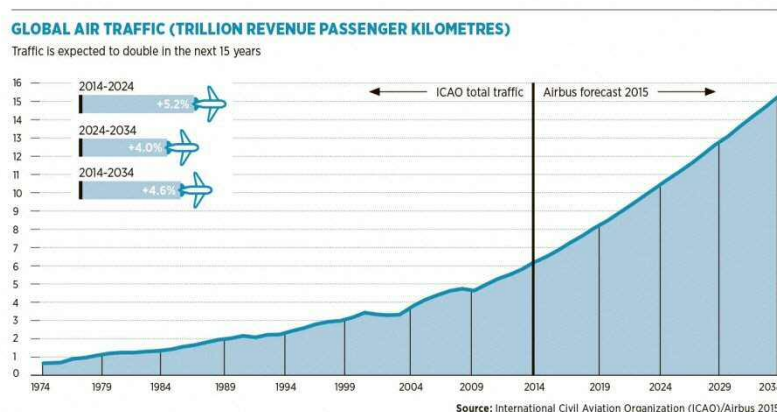
中でもタイは 5 カ国の中央に位置し、輸出ハブとしての役割を果たしています。そこで近年注力されているのが航空機産業です。

<講演2> テーマ「航空機分野におけるタイ及び ASEAN 市場の将来性」

(講演者：C.C.S.ADVANCE TECH CO.,LTD. クリアンクライ・マノプラチャイラト氏)

海外の大手航空機メーカーと取引を行い、タイの航空機産業を牽引する同社の取組とタイにおける航空機産業の発展可能性について講演が行われました。

図表：全世界の航空交通量（RPK、旅客キロ）



上記図表のように全世界での航空交通量が伸びる中で、タイは航空機産業、特に MRO（整備・補修・オーバーホール）を国内産業として育てていこうとしています。同社は約 10 年前に飽和状態の自動車産業から、航空機産業に大きく舵を切りました。それはもちろん簡単な決断ではなく、大きな設備投資も求められるものですがこの先の航空機需要を見越し、この分野への参入を決断されました。現在ではボーイングやエアバスなどの航空機メーカーから直接認証を受けるまでに技術力を高めています。

日本には「機を見るに敏」という言葉がありますが、まさに「その時」、「その市場」で、「求められるビジネス」をつかむためにスピード感を持って選択と集中をすることが大事だと痛感する事例でした。もちろん選択さえすればうまくいくわけではなく、現在に至る紆余曲折や足りないリソースをどう補うかなど実体験に基づく貴重なお話を伺うことができました。

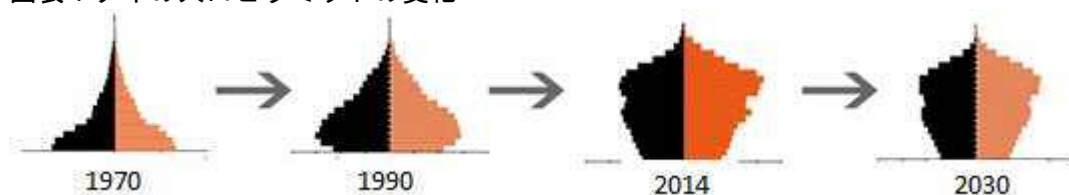
<講演3> テーマ「ヘルスケア分野におけるタイ及び ASEAN 市場の現状及び将来性」

(講演者：THAI HEALTH PROMOTION FOUNDATION チャンウィット・ワサンタナラット氏)

「少子高齢化の進行」と「健康志向の高まり」というタイのヘルスケア産業が抱える二つのテーマについて、現状や政府が実施する施策、そしてこの分野への日本企業のビジネスチャンス等に関して講演が行われました。

読者の皆様の中には、タイをはじめとするアジアの国々について、「総じて若く健康的である」というイメージをお持ちの方もいらっしゃるかもしれませんが、実際は決してそんなことはありません。タイなどの国々では、濃い味付けや、（過去のオフィス便りの中でもお伝えしましたが）驚くほど甘い飲食物を好んで摂取することによる健康への影響が問題となっています。また、近代化・都市化の波に乗った女性の社会進出や、教育費用の増加といった背景から、日本と同様あるいはそれ以上のスピードで少子高齢化が進んでいます。

図表：タイの人口ピラミッドの変化



図表：タイはASEANで肥満度第2位。人口の32.2%が肥満。（出典：WHO）



ASEANの肥満度第一位はマレーシアですが、それに続く第2位はタイです。実際弊社でも年に2回、期間限定のダイエットチャレンジ（個人またはチーム参加）が行われ、優勝者は表彰されたりしています。公正を期すため、オフィスの入り口に期間中は体重計が設置されたりもします。

高齢化や生活習慣病への対策が進んでいる日本のノウハウや技術は東南アジアにおいて高い付加価値を生み出し、求められているということがとても伝わるお話でした。

<パネルディスカッション>

最後は講演いただいた2社と島根県企業2社のパネルディスカッションを行いました。パネルディスカッションでは以下の論点が取り上げられました。

●島根県企業に対して

- ・（海外へ）進出、展開しようと思っている理由。日本の技術が認められるかどうか、その希望と不安。
- ・進出プロセスにおいてどんな課題があったか、そしてどう乗り越えたか
- ・海外でビジネスして驚いたこと、勉強になったこと、今後の思い
- ・今後の海外展開の試みをどう進めていくか。その予定、準備。

●タイ企業に対して

- ・海外で拠点を持たずに、世界トップレベルの企業への営業・取引開始ができた背景にはどういう思い、苦労があったか。それをどう乗り越えたか
- ・（タイ、海外からの観点で）
日本が持っているノウハウをどう展開できるか、どう展開すれば良いか。
- ・タイの高齢化社会の現状や社会の基盤は日本と違う。
そうであってもどういうチャンスがあり、どうすればそのチャンスを掴めるのか。
- ・日本企業に感じる魅力は何か。タイ企業と協力して日・タイのペアでどう世界に挑む？

各社のご経験を踏まえた忌憚のないご意見をいただくことができました。その中でも印象に残っているのは「実際（海外へ）出るにあたっては誰の話を信じたらいいのかわからない。でもその中でこの人だという出会いがあった。」「また、出てみたら持ち込んだ日本のノウハウが通用しなかった。通用しないのにはもちろん理由があって、現地にあわせて試行錯誤しながらいろいろ調整した。そして商品を絞って黒字化していった。」という島根県企業の意見。そしてこれに対するタイ側の「まさにその通り。自分が言いたいことを全部言っていた。日本は介護業界の中心地だと思うが、何が本当の商品なのか、お客様の本当のニーズはどこにあるのかなど国ごとに考える必要がある。」「相手の文化を受けいれつつ、相手を教育するには時間がかかる。これにはパートナーが必要。」といったやり取りです。

様々なご経験をされた島根県とタイの経営者の方々が共感をもって語り合えるということそのものがパートナーシップの始まりだと改めて感じました。これは商談会などの場で商品の話、売り買いの話をしているだけでは生まれません。こうしたワクワク感をぜひ今後もお届けしたいと思います。



セミナー後の名刺交換会。通訳もいるので言葉の壁を越えて積極的な情報交換が行われました。

次ページでは実際に今回の交流会に参加されたタイ企業の1社である Chokchai Agricultural Machinery Co., Ltd Chokchai Agricultural Machinery Co., Ltd.(チョークチャイ農業機械株式会社)のヤーナポン・リンパナチョークチャイ氏へのインタビュー記事を掲載しています。同社にご興味をお持ちの方は直接コンタクトいただくこともできますし、県庁・しまね産業振興財団を通して島根・ビジネスサポート・オフィスにご連絡ください。

□■タイ企業インタビュー■□

～日系企業との取引に関心のあるタイ現地企業をご紹介します～

CHOKCHAI AGRICULTURAL MACHINERY CO., LTD.

チョークチャイ農業機械株式会社



・チョークチャイ農業機械株式会社の事業及び製品について

私達は約 50 年ほど農業機械に関する事業を行っています。農業機器の歯車(ギア)や軸の製造から始まり、その後、トラクターの製造、またヤンマー社やクボタ社の OEM 企業として、さまざまな農業機械を製造して、日本、アジアやアフリカなどの多くの国に輸出しています。従業員は 200 名ほどです。弊社の製品は、米、とうもろこし、さとうきび、サンパラン芋など、他にも、さまざまな農業を支えています。そして、耕す、植える、メンテナンスの 3 点をカバーしています。

・企業の強みについて

弊社の強みは、自社の R&D です。農業とは何かを知り、農業従事者が何を必要としているか知っているのが、彼らのニーズに合致した農業機械の設計・製造が可能です。弊社は農業大学と協力し、農業の様々な分野の発展のため支援を行っています。

・とりわけ大切にしている社内方針について

顧客を大切にすることです。顧客が何を望んでいるのか見極めることに重きを置いています。顧客の必要にあわせて設計し、その製品の品質についても考えます。

・社内における技術面の研修制度について

従業員のための研修は定期的に設けており、大学講師を招待して、植え付け、収穫について教えてもらったり、砂の粒子や、粘土質や砂質土壌はどのようなものか、土壌の種類ごとにふさわしい機械はどれか、また肥料の種類や使用方法について学びます。従業員全員が研修を受けます。特に R&D チームはどの国に、何をどのように製造するか知る必要があります。



・運営管理における障害や問題について

どこも似たような問題を抱えているかと思いますが、現在タイでは労働力が不足しており、外国人の労働力に頼わざるを得ない点です。サプライヤーに関する問題ですが、弊社の機械は比較的高い機械技術を必要としますが、サプライヤーの大半がタイ企業であり、様々なオーダーに対応できない。仮に対応できていても十分ではないといった問題があります。私達がテクノロジー4.0を目標にしても、2.0や2.5、また3.0にしかならないこともあります。とはいえ、労働者不足の問題のほうが大きいと思います。

・海外拠点の有無、また今後の海外進出の予定について

ミャンマーに支店があり、更にミャンマー、インド、インドネシアでの工場建設についても検討中です。とりわけナイジェリアに関心をもっています。市場は大きく、タイと同じ気候帯にあるので、季節や気候も同じで、需要がある機械の種類も似ています。弊社は、マリンに年間1000台以上の機械を輸出しています。もしこういった需要が続くようであれば、輸送コスト軽減のため工場設立を考えています。昔は米を輸出していましたが、現在、彼ら自身で稲作を行っており、弊社から農業機械の輸入を望んでいます。

・日本企業とのビジネスへの関心はあるか、ある場合、どの種のビジネスに興味があるか。

日本企業とのビジネスに興味はあります。現在2~3社の日本企業とビジネスを行っていますが、更なる市場機会を見つけるため、もっと増やしたいと考えています。日本はタイで市場進出を考え、タイは日本の技術が欲しいと考えています。事業のトレンドはロボットそしてテクノロジー4.0なので、日本の技術を取り入れたいと思います。ヤンマー社では運転手の代わりにGPSを使用したトラクターを製造しています。ヨーロッパでは労働力としてロボットを、農薬散布のためドローンを使用して

います。農業従事者の数が今年度は 20%減少しましたが、更に減少し続けるといわれているため、将来に備えて、弊社でも大学と協力し、野菜の植え付けができるロボットの開発を進めています。

・日本人と仕事するうえでのメリット及び障害について

日本人と仕事をするうえで障害となる点はあまりありません。私達は(日本人)の要望に沿って製造しています。日本人と一緒に仕事をするといっても、日本のものを全て使用するわけではなく、色々なものを私達が設計し、日本人が細かな部分をチェックしています。日本にはフロントブレードが車体に取り付けられているトラクターはありませんが、タイでは必要なため、あぜ道を作るためのブレードを設計して、ヤンマー社に提供しました。日本の技術のよい点は、私達に更に難しく挑戦となる仕事に携わる機会を与えてくれることです。

・日本の技術や製品への関心

とりわけ、ロボット技術そして農作物の収穫量を増やすための技術に関心があります。弊社はいろいろな国でネットワークがあるので、協力してくれる日本企業の利益になると思います。将来、タイまたは私達の工場が農業機械の事業において、ハブの役割を果たせるようになってほしいと願っています。

・タイの農産業についての意見

タイの農産業を総合的にみると、輸出において成長しています。しかし、タイ国内の需要は減少し、中国やベトナムとの競争ゆえに、農産物の価格が下落しています。タイの農家は輸出に力を入れ、輸出額は年間約 300～500 億タイバーツになり、年間の輸出伸び率は約 10%～15%になります。アフリカでは農業機械の需要が伸びており、タイ製品の価格と質は注目されています。

・日本やタイでのビジネス商談会や意見交流会、商品展示会への興味

ビジネス商談会、意見交流会、農作物の展示会に興味はあります。私達は日本企業と一緒に投資する準備ができています。弊社は DITP のメンバーで、何度も展示会を開催し、ナイジェリア、ロシア、日本企業も招待しました。準備はできているので、いつでも、一緒に事業を行えます。

・最後に読者に伝えたいこと

弊社は農業機械の製造に何十年も携わってきました。弊社は、タイの農業機械事業において一番であると自負しています。タイ農業の中心である、とうもろこし、さとうきび、サンパラン芋といった農作物、また、エネルギー作物、飼料用農作物のための農業機械を製造しています。そして、自社だけではなく、タイ国全体の農産業のバリューチェーンを見通すようにしています。

会社概要



Chokchai Agricultural Machinery Co., Ltd.

住所： 229/3 Moo 4 Soi Petchkasem 99,
Petchkasem Rd., Omnoi, Krathumbaen,
Samut Sakhon 74130 Thailand

Tel : 02 420 5378-84

Email : info@chokchai.co.th

URL : <http://www.chokchai.co.th>

☆☆タイから便り☆☆

～産業転換センター (Industry Transformation Center:ITC)～



産業振興局産業振興センター1 (Industrial Promotion Center, Region 1:IPC1)の様子、チェンマイ県

こんにちは。島根ビジネスサポートオフィスのタイ人スタッフのニンと申します。

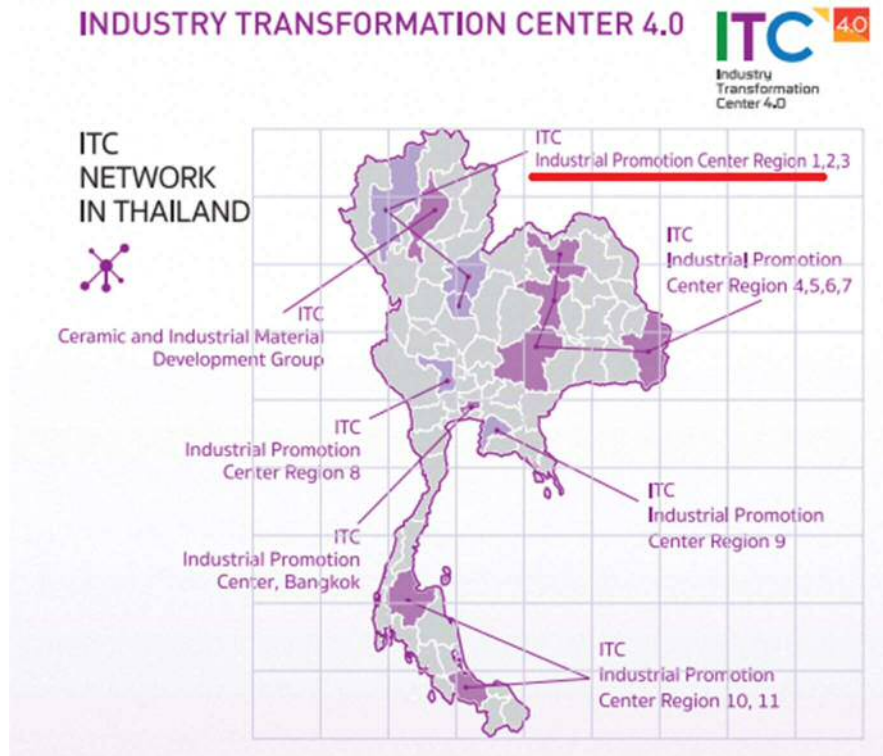
タイ北部のチェンマイ県に出張した際に、「産業振興局産業振興センター1」(Industrial Promotion Center, Region 1:IPC1)の中にある「産業転換センター」(Industry Transformation Center:ITC)を訪問する機会がありました。ここでは、この地方での中小企業に対する多面的な支援活動についてお話を伺うことができました。そこで今回は、「IPC1」及び「ITC」の主要業務をご紹介します。

「産業振興局産業振興センター 1」(Industrial Promotion Center, Region 1:IPC1)とは？

IPC1はタイ工業省産業振興局 (Department of Industrial Promotion: DIP) の地方機関です。

IPC1 は所轄 8 県を Lanna1「メーホーンソン、ランプン、ランパーン、チェンマイ」及び Lanna2「プレー、ナーン、パヤオ、チェンライ」の 2 つに区分けしています。Lanna1 は観光、商業、投資を中心にし、Lanna2 は農業、商業、文化を中心に産業振興を行っています。

「産業転換センター」(Industry Transformation Center:ITC) とは？



※画像の出典: <http://www.itc.or.th/>

タイ工業省産業振興局は中小企業振興のために、全国 12 カ所にコメイキングスペース(Co-Making Space)として ITC を設置しました。ITC は企業からの相談窓口を中心的な役割とし、事業運営や商業的な研究、資金など包括的な支援提供をすることで、産業の高度化及び新製品を開発する場として活用されています。産業転換センター(ITC)の目的は以下の通りです。

1. 産業製品の変革
2. 生産プロセスの変革
3. 産業人材の変革
4. 3つの関係政府機関との連携 (ITC は以下の 3つの政府機関等が共同設置しています)



工業省 (MOI)



科学技術省 (MOST)



デジタル経済社会省 (MDES)

※画像の出典: <http://www.itc.or.th/>

IPC1 の ITC の支援サービス

Industrial Promotion Center Region 1 Chiang Mai, Thailand

กรมส่งเสริมการค้าระหว่างประเทศ
DEPARTMENT OF INDUSTRIAL PROMOTION

กรมส่งเสริมการค้าระหว่างประเทศ
DEPARTMENT OF INDUSTRIAL PROMOTION

UNIT PP
UNIT Pilot Plant

UNITOX
UNIT Oil Extractor

UNIT IC
UNIT Ink Converter

ITC 4.0
Industry Transformation Center 4.0

เงินทุนหมุนเวียน
เงินอุดหนุนวิสาหกิจขนาดกลางและขนาดย่อม

IDEA HOUSE

ศูนย์ส่งเสริมอุตสาหกรรมภาคที่ 1

- 1 กลุ่มพัฒนาธุรกิจอุตสาหกรรม
- 2 กลุ่มพัฒนาอุตสาหกรรมชุมชน
- 3 กลุ่มบริการธุรกิจอุตสาหกรรมและผู้ประกอบการ
- 4 กลุ่มแผนงานและบริหารอุตสาหกรรม

SSRC SME Support and Rescue center
ศูนย์สนับสนุนและช่วยเหลือเอสเอ็มอี

ITC Industrial Transformation Center
ศูนย์ปฏิรูปอุตสาหกรรม
ภายใน ศก.1 ก่อ. จะประกอบไปด้วย 3 หน่วย

- UNIT PP หน่วยแปรรูปผลผลิตทางการเกษตร
- UNITOX หน่วยสกัดน้ำมันจากเมล็ดพืช
- UNIT IC หน่วยบริการด้านการออกแบบ

เงินทุนหมุนเวียน
เพื่อการส่งเสริมอาชีพอุตสาหกรรม
ในครอบครัวและหัตถกรรมไทย

IDEA HOUSE โครงการพัฒนาศักยภาพผู้ประกอบการ
ประกอบไปด้วย 4 กิจกรรมหลัก คือ

Design Contests, Design Service, Creative Marketing Campaign, Social Media

QR code and contact info:
หมายเลขข้อมูลพื้นฐานผลิตภัณฑ์
☎ 053-245361-2*430
f ideahouse.ipc1 | ipc1.dip.go.th

※画像の出典: <https://ipc1.dip.go.th/th>

ITC では現地での主要産業に応じて次の3つの支援サービスを提供しています。

【1. 農業加工試作品開発ユニット (Unit Pilot Plant: Unit PP)】



農業加工試作品開発ユニット(Unit Pilot Plant: Unit PP)は農業および食品加工に関する支援を行っています。高温・高圧で水を使用する抽出機 (High Speed Extractor), 液体から濃縮物への蒸発機 (Evaporator), 噴霧乾燥機 (Spray Dry), 凍結乾燥装置 (Freeze Dry), 熱風オーブン機 (Hot Air Oven), オイル抽出機 (Oil Extractor)などのサービスを提供しています。

【2. オイル油抽出ユニット (Unit Oil Extractor: Unit OX)】



オイル抽出ユニット (Unit Oil Extractor: Unit OX)はこの地方の農産品(豆などの農作物)からオイルを抽出する技術開発を支援しています。このユニットでは、固い豆からオイルを抽出するための“Screw press machine”と柔らかい豆からオイルを抽出するための“Hydraulic press machine”を利用して、豆から植物油を抽出するサービスを提供しています。

【3. デザインユニット (Unit One Connection: Unit 1C)】



デザインユニット (Unit One Connection: Unit 1C)は商品開発と付加価値創造のための支援をしています。このユニットではより魅力的な製品にするためのパッケージング設計や、グラフィックデザイン、3D プリンティング・スキャニングなどのサービスを提供しています。

ITC からの支援のおかげで産業の少ないタイ北部で創業し、事業が成功した中小企業がたくさんあります。今回私がお邪魔したタイ北部にある ITC のみならず、各地方の ITC も現地の主要産業を中心にして同じように中小企業振興を支援しています。中小企業が強くなればなるほど、タイ経済は持続的に成長し続けていきます。

こうした技術的な支援があると、現在起業したい方は技術がなくても良いアイデアさえあれば、起業の道のは遠くないことになりますね。

ビジネスパートナーとしてタイ企業を探す日系企業の方、又は地方の主要産業に関わるタイ企業の情報を知りたい方がいらっしゃればタイ全国にある ITC にご連絡ください。また、タイにいらっしゃる機会があれば ITC の相談窓口へご相談いただくことも一つの選択肢としてお考えいただくと良いかもしれません。

※MGR ONLINE より引用 <https://mgronline.com/smes/detail/9610000061813>

産業振興局産業振興センター1(IPC1)より引用 <https://ipc1.dip.go.th/th>

※別紙に、年内に開催予定のタイ・インドネシア・ベトナムの展示会情報をまとめました。

サポートオフィスでは、現地で開催される展示会へのアテンドも行っております。

関心のある展示会がございましたら、お気軽にご連絡ください。

担当；神谷 靖子 Yasuko Kamiya

Address :1 Glas Haus Building, 12 FL., Room 1202/D,Soi Sukhumvit 25,
Sukhumvit Rd.,Klongtoey-Nua,Wattana,Bangkok 10110

Tel :+66-(0)-2-261-1058

Mobile :+66-(0)-89-200-7763

Mail : shimane-bizsup@aapth.com

▶ タイ経済指標

項目	単位	2016	2017	2018	2019
GDP 成長率	前年比ベ(%)	3.4	4.0	4.1	2.6(1~6月)
人口*	千人	67,506	67,697	67,869	67,967(7月)
労働者の数*	千人	37,792	37,716	38,353	38,075(8月)
失業率**	%	0.99	1.18	1.06	0.98(8月)
最低賃金*	バンコク	300	310	325	325(9月)
	チョンブリー	300	308	330	330(9月)
	アユタヤー	300	308	320	320(9月)
	ラヨーン	300	308	330	330(9月)
賃金:全国製造業の平均	バーツ	12,402	12,473	12,831	13,218(8月)
インフレ率**	前年比ベ(%)	0.19	0.67	1.06	0.87(8月)
中央銀行政策金利*	%	1.50	1.50	1.75	1.50(9月)
普通貯金率**	%	0.47	q0.47	0.47	0.47(8月)
ローン金利(MLR) **	%	6.47	6.35	6.32	6.32(8月)
SET 指数*	1975年:100	1,542.9	1,753.71	1,563.8	1637.22(9月)
バーツ/100円**	バーツ	32.53	30.27	29.26	28.69(9月)
バーツ/米ドル**	バーツ	35.30	33.9	32.31	31.30(9月)
円/米ドル**	円	108.8	112.2	110.4	109.1(9月)
車販売台数(1月からの累計)	台数	765,593	869,763	1,041,311	719,600(8月)
BOI 認可プロジェクト	件数	1,688	1,227	1,469	717(1~6月)
BOI 認可プロジェクト金額	10億バーツ	861.3	625.08	549.48	191.79(1~6月)

*期末、**平均